

ストレスが悪化させる



さて、このコラムもいよいよ、

認知症にさせる10か条の大詰めを迎える。ひとつのテーマで書き続けるのは結構にしんどい。それに、ワッシーを精神科の医者と間違っひとがいて、困ることもある。

あまりストレスが強いと、ホルモンの一種「コチゾール」が過剰に分泌され、脳の器官・海馬が萎縮して認知機能が低下するといふ。が、なーに、ワッシーのは、そんな大げさなものではない。書くのは一種の脳トレみたいなのもので、それなりに楽しんでいる。

だが、こういうケースはどつたらう。78歳になるS子さん親子だ。娘さんは、母親がひどい認知症だ

認知症にさせる第10条

と言いつ張る。が、軽い記憶障害だけで、日常生活に支障はない。頭のMRI（磁気共鳴画像装置）の検査でも、脳の萎縮は年相応だ。ただの「軽度認知障害」である。

だが、その娘さんが、厳しい。診察の度に、薬を飲み忘れたとか、電気を消し忘れたとか、誰でもやりそうになっちゃった失敗談を並べ立てる。患者さんである母親の前で、である。もちろん家でも、その都度、「また忘れた。ダメや」と注意するそつだ。「当然よ。ひどくなったらどつする」と。ま、ワッシーなら、ストレスで発狂しそつだ。

忘れっぽいひとに、「忘れるな」と言いつつなる？ 一般に、年

失敗談 並べ立てないで

を取ると、もの忘れが気になる。「認知症になったらどうしよう」と、不安に押しつぶされそうになっている。それを、「また忘れた。忘れるな」などと言われては、ますます自信を失くし、不安を募らせる。まるで、溺れかけたひとの足を引っ張るようなものだ。

ほどなく、S子さんから笑顔が消えた。怯えた顔で、落ち着きがない。もの忘れは進み、今では「認知症」の診断は正しい。あっ、そつだった。認知症のとどめの第10条は、「もの忘れを指摘して、いじめる」であった。

(石黒修三 しいづるクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住)